

各推進部会協議結果の報告

1 評価・検証推進部会

(1) 第1回 (6月25日開催)

協議事項	① 調査項目の検討 ② 評価の枠組みの検討
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・調査を通して浜松市の「包摂性」が明確になるとよい。 ・施策の評価に留まらず、市の課題を発見できるような調査にできるとよい。 ・教員の加配や外部人材の配置など、必要な予算や人員を確保するための根拠データとして使えるように設計することが重要。

(2) 第2回 (10月28日開催)

協議事項	① 調査項目について ② データの利活用について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の社会経済的背景（家族構成、世帯収入、学歴）に関する調査を実施するにあたっては、調査の目的を丁寧に説明することが重要。 ・データの活用方法については、保護者に対して統計的な処理をし、個人は特定されないことを周知することが大切。

2 教育DX推進部会

(1) 第1回 (7月16日開催)

協議事項	① 第4次浜松市教育総合計画を支える教育DXの在り方について ② 学校現場における生成AI利活用について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちのICTを活用した授業に対する満足度は高いものの、教師は評価や端末の操作に不安がある。ベテランの先生ほど苦労している。研修の在り方を工夫し、ハードルを下げる必要がある。 ・「どういう子供たちを育てていきたいのか」「教育委員会として、どのようなメッセージを出すのか」といった技術論に先行するビジョンと思いの共有が大切。 ・生成AIは、早急に導入すべき。どう活かすかという視点をもつことが重要。

(2) 第2回 (12月16日開催)

協議事項	本市における教育DX推進の全体像（案）について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像の構造はいいが、細部まで正確な表記を期すべきである。 ・「誰もが」「自分らしく」「教育環境」などのミッションに含まれる言葉のもつ意味を、全員が共有できるようにすることが大切。 ・将来に渡って多様な学びを継続する視点を入れるとよい。 ・データ利活用は、子供視点の在り方も検討すること。 ・「こうなったらいい」という実現の可能性も踏まえつつ記述することが大切。

3 学校における働き方改革推進部会

(1) 第1回(9月16日開催)

協議事項	① 「業務改善方針」におけるこれまでの取組状況と成果について ② 「業務管理・健康確保実施計画」の策定に向けて ・国、県、浜松市の動向について ・教員の負担感・働きがいに関する意識調査結果について
主な意見	・教頭に仕事が集中しており、教頭の負担軽減が求められる。 ・教員の働き方改革を進めるためには、これまでの慣習を打破するダイナミックな改革が必要である。 ・保護者対応や長時間に及ぶ電話への対応について、勤務時間外は自動応答の徹底を進める、自動録音を普及していくことが大切。

(2) 第2回(1月23日開催)

協議事項	浜松市教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画 骨子(案)について
主な意見	・時間外在校時間を国の目標値に向けて減らすための努力は必要。しかし時間外在校時間の減少がイコール教職員の働きがいとは限らないので、数字に振り回されない、柔軟な働き方改革、業務量管理が必要。 ・登下校時間や電話の応答時間など、学校での働き方改革推進には保護者・地域の理解が必要。教育委員会が学校の後ろ盾となって推進するとともに、学校運営協議会等を通じて地域に浸透させていく。 ・サブタイトルが「はままつの先生」となっているが、事務職員等、様々な立場の職員を含めてのタイトルになると良い。 ・教職員は当然、保護者・地域にも広められるような、見せ方の工夫が必要。